

# 抗がん剤治療の課題克服へ

## 薬を選択、個別化医療進む

### からだを 読み解く

九州大病院別府病院の治療・研究

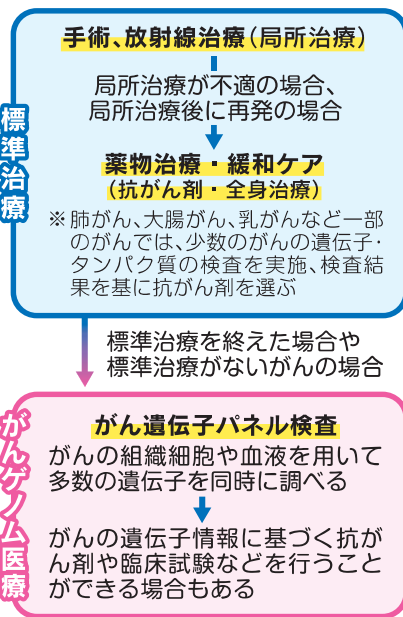


内科医員  
これいし かくや  
是石 咲耶

がんの治療は主に手術、放射線治療、抗がん剤、緩和ケアの4種類があります。手術と放射線治療は局所治療、抗がん剤と緩和ケアは全身治療です。肺がん、乳がん、大腸がんなど、がんが最初に発生した臓器によって詳細な治療方針は異なりますが、転移がない初期であれば手術や放射線の局所治療で完治を目指すのが一般的です。一方で、遠くの臓器に転移している進行期では局所治療は効果が乏しいため、主に抗がん剤や緩和ケアによる治療をします。

緩和ケアはがんと闘った

## 医師との対話が一番大切



### がんゲノム医療までの流れ(図)

※がん情報サービスホームページを基に作成

▶ 10 ◀

から抗がん剤だけで完全に病気を治すことは難しい実情があります。

めの体力を維持向上させる治療ですが、抗がん剤はがんを直接攻撃する治療です。抗がん剤治療には①効果が出る人と出ない人がいる②一度は効果が出てもほぼ全ての人がいずれ効かなくなる③使える抗がん剤の種類には限りがある④副作用があるーなどの課題があります。そのため、残念な

から抗がん剤だけでなく完全に病気を治すことは難しい実情があります。①と③の課題を克服するため、現在では個別化医療が進んでいます。現在、がんの個別化医療の多くは、さまざまな検査でがん細胞が持つ遺伝子の変異やタンパク質を調べ、より効果が期待できる薬を選択すること、効果の期待できる薬の選択肢を増やすことを目指します。肺がん、大腸がん、乳がんなどがんの種類によって、医療保険で実施可能な遺伝子やタンパク質の検

査の内容は異なります。また、医療保険で投与可能な抗がん剤(標準治療の抗がん剤)を使い果たした場合、がんゲノム医療という個別化医療を受けられることがあります(図)。がん遺伝子パネル検査で多数の遺伝子検査を同時に実施することで、医療保険で投与できる治療薬の選択肢が増えたり、臨床試験での治療に参加可能になる人が1、2割ほど存在します。現在、治療機会を増やすため研究や開発が進んでいます。

個別化医療の進歩で、抗がん剤治療はより一層複雑化しました。インターネットではさまざまな情報を手に入れられますが、情報を整理することが極めて困難です。適切な治療を受けるためにはがん治療の主治医としっかり話し合うことが一番大切です。また、日々進化する抗がん剤治療を適切に提供するため、抗がん剤の専門医(腫瘍内科医)が日本でも少しずつ増えています。治療方針に悩んだ際は主治医に相談し、腫瘍内科医によるセカンドオピニオンも検討ください。